



～文化の風が吹くまち ちくしの～

# 文化薫道



## ◆其の八十六

### 新時代は御仏と共に

今から約1700年前、豪族が自らの権力を示すために古墳を造り始めます。その中でも、最も特徴的な前方後円墳は、ヤマト王権と地方を結び付ける政治的シンボルでした。

この前方後円墳が造られなくなるころ、朝鮮半島から日本に仏教が伝わりました。その後、50年以上の歳月を経て、推古天皇の時代に仏教は本格的に受け入れられ、飛鳥(奈良県)を中心に「お寺」がたくさん建てられるようになります。

豪族たちは前方後円墳に代わる祖先をまつる場として、お寺造りに力を入れていくのです。また、それだけではなく、財力と権力も必要とされました。造営と経営の経験がない彼らは、技術者や僧などが必要であり、そのために中央とつながることが求められたのです。

このようにして、豪族の力と財力を表すシンボルが、古墳からお寺に移り変わっていきます。

「ちくしの」人も、時代の移り変わりに乗り遅れてはいません。塔原東3丁目には塔の心柱が立っていた礎石が残っているため、このあたりに塔を含むお寺が存在したようです。この礎石は飛鳥時代のもので推定されていることから、飛鳥から遠く離れた「ちくしの」にも、古墳からお寺という時代の波は来ていたのです。

このお寺を建てた「ちくしの」人は、時代を読む力をもっていたからこそ、新時代の波をつかむことができたのでしょう。



国指定史跡 塔原塔跡

図文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>